

環境に配慮した製品の開発

コーセーでは「人はもちろん、地球の環境にもやさしい化粧品づくり」に力を注いでいます。原料や材料の選択に厳しい基準を設けるだけでなく、使い終わったあとの分別しやすさ、廃棄のしやすさ、廃棄量を少なくすることなども考慮して研究開発を行っています。

●生分解性原料を積極的使用▶

洗顔料やシャンプー等の製品では、万一河川に排出されても自然界の微生物によって分解されやすい生分解性のアミノ酸系原料を使用しています。「コスメデコルテ」、「グランデヌ」、「ソフティモ」、「サロンスタイル」などほとんどのブランドで採用していますが、2009年度は49品が追加されました。



廃棄で環境を汚さないために

製品の開発にあたっては、企画設計エコ指針で「使用中の商品、宣伝物、販売促進物等、およびその廃棄物が人体や環境を汚染しないこと」を掲げ、原料等の選択から環境への保護を配慮したり、廃棄量そのものを減らす工夫をしています。



●添付能書の削減▼

製品の1個箱(外箱)の一部に化粧品の使い方など能書にあたる説明文を直接印刷し、紙による能書の添付をしない製品を増やす努力をしています。現在、多くのブランド及び製品で採用していますし、製品によっては箱の内側に記載するなどの工夫もしています。2009年度に発売された117品目の化粧品でこの方法を採用しました。

●包装を簡素化した詰め替え容器▲

原料使用量や使用後の廃棄量低減のために、スタンディングパウチや詰め替えボックス、詰め替えボトル等の製品を積極的に発売していますが、2009年度からはハイプレステージブランドやこれまでにない剤型の製品にも拡大しています。「グランデヌ ルクサーージュ」や「インフィニティ」の化粧水、乳液ではポンプを再利用できる付け替えボトルを、「コーセーコスメポート こっこママ」では、日焼け止めですべて詰め替え容器を採用しました。



●オーガニック原料の使用 ▼

農業の分野で環境に配慮した栽培方法によるオーガニックが注目を集めていますが、コーセーではオーガニック原料の化粧品への活用にも力を入れています。「ネイチャー アンド コー」や「サロンスタイル」等では有機栽培されたオーガニックハーブのエキスを配合しています。また、「アウエイク ピュアオーガニックコットン」はJOCA(日本オーガニック・コットン協会)の認証を取得した綿花を使用しました。



●非木材紙の利用 ◀

パガス(サトウキビの絞りかすを原料とした紙)やケナフ紙(1年草のケナフを原料とする紙)など、木材のパルプを使わない紙の活用は森林保護にも役立つため、化粧品のパッケージにも積極的に使用しています。「ジル スチュアート」シリーズや「コスメデコルテ AQ」、「コンビニック セレクティ」など、2009年度も35品目にケナフ紙を使った1個箱が採用されました。



●特殊加工で再生樹脂の使用を可能に ▶

製品の性格上、新しい材料を使いたいファンデーションのレフィルの包装容器では、再生PET樹脂の両側をバージンPET樹脂ではさむ3層構造技術を開発。ほとんどのレフィル容器で採用し、大幅な新規材料の低減につなげています。



●リサイクル原料を積極的に活用 ▼

化粧品の容器として再生樹脂原料の活用にも取り組んでいます。特にPET(ポリエチレンテレフタレート)樹脂、PP(ポリプロピレン)樹脂、PE(ポリエチレン)樹脂、色見本サンプルや口紅成型カプセルに使用されるSAN(アクリルニトリルスチレン)樹脂、キャップ等に使用されるABS(アクリルニトリルブタジエンスチレン)樹脂、そして口紅の製造に使用するPS(ポリスチレン)樹脂などがリサイクル原料を使用しています。PET樹脂を例にとると、2009年度は17品の製品で再生原料を使っています。

限りある資源を守るために

企画設計エコ指針では、「包装材料のリサイクル、リユースしやすい仕様にする」と定めていますが、化粧品の容器包装を貴重な資源として再利用するために材質の選定に配慮したり、再生紙やリサイクル素材、非木材紙等も積極的に採用しています。



●再生紙の活用 ▶

製品の1個箱や能書、パンフレット、ダンボール箱など全てのもので再生紙の使用率を高める努力をしています。現在では「コスメデコルテ」や「アウエイク」、「ポーテド コーセー」、「雪肌精」などほぼ全てのブランドで再生紙を使用しています。2009年度に再生紙をパッケージに採用した新製品は464品目に上ります。

